

[月刊] キリスト教書評誌

本のひろば

出会い・本・人

ヘーリンクの語る倫理 竹内修一

特別寄稿

TOMOセレクト

「シリーズ 3・11後を生きる」を読む

西出勇志

本・批評と紹介

偽フィロン 著／井阪民子、土岐健治 訳

ユダヤ古典叢書

聖書古代誌 保坂高殿

土肥昭夫 著

キリスト教会と天皇制 山口陽一

山下万里 著

死と生 三浦 修

「ホーク伝」を出版する会 編

ドナルド・E・ホーク 高見澤栄子

宮村武夫 著

礼拝に生きる民—説教 申命記

坂井純人

岡部一興 著

山本秀煌とその時代 五十嵐喜和

大宮 溥 著

神の国の福音 平野克己

関西学院大学神学部 編

関西学院大学神学部ブックレット5

自死と教会 福山清蔵

氣賀健生 著／青山学院『本多庸一』編集委員会 編

本多庸一 棚村重行

H・O・オールド 著／金田幸男、小峯 明 訳

改革派教会の礼拝 関川泰寛

吉田 新 著

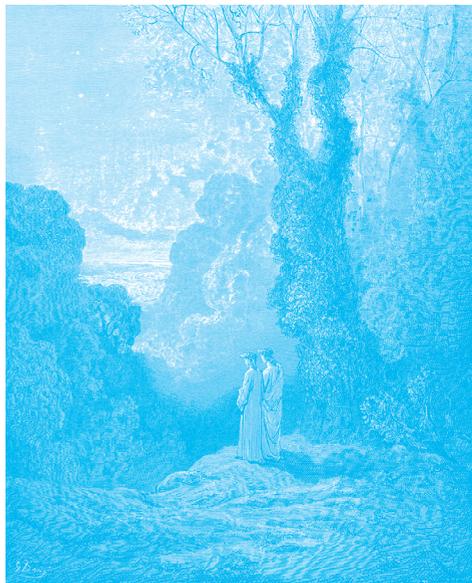
聖書の研究シリーズ66

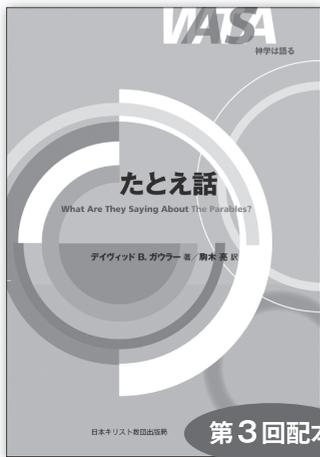
バプテスマのヨハネ 川島貞雄

近刊情報

書店案内

3 MARCH
2013





VASA たとえ話

神学は語る

デイヴィッド B. ガウラー 駒木 亮 訳

イエスは「神の国」をいかに伝えたのか？
その技法に迫る！

イエスのたとえ話を巡り、神学者たちが重ねてきた膨大な議論を、歴史的批評、文学的批評、社会科学的批評など大きく7章に分類し、「たとえ話」研究の最先端へ読者を導く。

第3回配本

◆A5判 並製・202頁・2,730円

シリーズ好評発売中

聖書とキリスト教倫理

W.C.スポン 徳田 信 訳

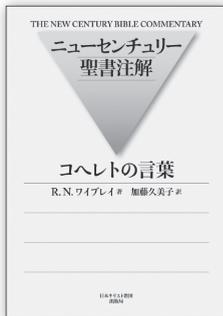
新約聖書と黙示

S.M.ルイス 吉田 忍 訳

◆A5判 上製・304頁・4830円

「コヘレトの言葉」に見られる言葉の矛盾。その課題に挑みつつ、書の統一性、ヘレニズムとの関連性に詳細な説明を施す。

第10回配本



ニューセンチュリー聖書注解 コヘレトの言葉

R・N・ワイブレイ
加藤久美子 訳

ローティーン向け伝記シリーズ

ひかりをかかげて

レイチェル・カーソン いのちと地球を愛した人

上遠恵子 第3回配本



◆A5判 並製・128頁・1260円
 環境破壊に警鐘を鳴らし、自然を愛した海洋生物学者レイチェル・カーソン。カーソン研究の第一人者が、彼女の生涯を語る。



出会い・本・人

ヘーリンクの語る倫理——竹内修一

カトリック倫理思想は、(もちろんいつもではないが)、その歴史の中で、二つの大きな過ちを犯してきた。一つは倫理と霊性の分離であり、もう一つは聖書から乖離した倫理である。その結果生まれたのが、いわば、キリスト不在のキリスト教倫理である。

この倫理は、また、マニユアル倫理神学とも呼ばれる。なぜなら、それは、『聴罪司祭の手引書(償いの規定書)』に基づき、犯した罪の種類と大きさを問題とし、具体的な人間の内的状態あつかたが問われることはなかったからである。

17世紀から第二バチカン公会議(一九六二―六五)に至るまでも、カトリック教会は、そのような倫理を規範とし、人々にそれを求めてきた。

そのような状況の中で、教会の刷新に努めた人物の一人が、ベルンハルト・ヘーリンク(一九二―一九九八)である。ヘーリンクは、何よりもまず、素材で誠実、また開かれた心の修道者であり司祭であった。彼は、戦時中、従軍司祭として敵味方に関係なく人々のために働いた。同時にまた、彼は、ヨゼフ・フックス(一九二―二〇〇五)とともに、二〇世紀を代表するカトリック倫理神学者でもあった。

九〇冊余りにも及ぶ著作の中で、『キリストの掟』と『キリストにおける自由と忠実』は、いわば、彼の代表作である。また、

遺作ともいえる『教会への私の希望——21世紀のための批判的励まし』は、平易な言葉で簡潔に書かれているが、彼の人と思想を知ることのできる書物である。

同書において、ヘーリンクは、教会が抱えるさまざまな問題を指摘する。例えば、教会の権威主義的・中央集権的体制、教会における女性の位置・役割、また性と結婚などである。これら諸問題に対する彼の忌憚のない批判は、確かに的確であり、教会が真摯に向き合わなければならないものである。しかし、その背後にあって、同書に一貫して流れているもの、それは、教会に対する彼の深い愛である。

イエスに倣うこと——それが、キリスト教倫理の原点である。だが、それが容易でないのも、事実である。なぜなら、私たちは、「わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている」(ロマ7・19)、とパウロが呻吟するように、生身の人間であるからである。しかし、同時にまた、イエスと労苦とともにするならば、その喜びに与るのも事実である(2コリ7・4参照)。

ヘーリンクは、生涯とおして、そのことを証した人物の一人である。

(たけうち・おさむ 上智大学神学部教授、イエズス会司祭)

TOMOセレクト「シリーズ 3・11後を生きる」を読む

東日本大震災――

あらためて問われる

言葉の力

評・西出勇志

『いのち』の使命

日野原重明 著

『選ばれてここに立つ』

佐藤 彰 著

『助けて』と言おう

奥田知志 著

『今、いのちを守る』

片岡輝美 著

『なぜ』と問わない

山浦玄嗣 著

『恐れるな』

晴佐久昌英 著

各四六判、八〇頁、定価八四〇円（税込）・日本キリスト教団出版局

震災が問い直した
宗教の在り方

宗教は戦後日本において常に後景に沈んでいた。ほとんどの人々は自らの信仰を表に出すことはなく、社会生活において宗教が口の端に上ることは滅多になかった。新聞やテレビなどのメディアは、生きた宗教について取り上げようとせず、多数いるは

ずの信仰者の姿は微かにしか見えなかった。これが、宗教をフィールドとして取材活動を続けてきた筆者の実感である。

その宗教をめぐる風景が東日本大震災で一変した。特に顕著なのが仏教である。粉雪が舞うがれきの中、一心に祈りを捧げながら歩く僧侶の姿に多くの人が心動かされ、葬送の現場や喪失体験において儀礼の力が再評価された。

安易な葬式仏教批判が再考を迫られる一

方、仏教界では逆に、これまで本気で葬送に向き合ってきたのかと自問した僧侶が数多くいた。日本人の生活習慣の中に深く入り込んでいたからこそ、受け手送り手の双方が宗教としての仏教を再発見する機会になったのではないか。

そこでキリスト教である。

今回の震災では仏教に注目が集まりすぎ

たせいとか、キリスト者の動きが見えにくく感じた。被災地が仏教文化の色濃い地域であることが影響しているかもしれない。

ただ、メディアが、仏教に比べてキリスト教を、より宗教として捉えていたという言い方ができるように思う。すなわち、このような災厄にあつては、キリスト者がさまざまなはたらきをしているであろうことは言わずもがなという理解である。

シリーズ全冊に満ちる
感情がほとばしる物言い

この前提を確認させてくれるのが、TOMOセレクト「シリーズ 3・11後を生きる」と銘打たれた六冊のブックレットである。

編集部による「シリーズ刊行の言葉」は力強く表明する。震災をめぐる「言葉の洪水」の中で「今の時代に聴くべき言葉は何かを探し続けた」。その探求から生まれたのがこのシリーズであり「著者一人ひとりが、与えられた状況と向き合い、格闘し、

存在をかけた問ひかけをする中から紡ぎだされたもの」だという。

六冊はこんなラインナップである。

今年一〇二歳になる聖路加国際病院理事長日野原重明さんの『いのち』の使命、福島第一原発から五キロに立地する福島第一聖書バプテスマ教会牧師佐藤彰さんの『選ばれてここに立つ』、ホームレス支援に取り組みむ日本バプテスマ連盟東八幡キリスト教会牧師奥田知志さんの『助けて』と言おう、会津放射能情報センター代表片岡輝美さんの『今、いのちを守る』、聖書を地元の言葉、ケセン（気仙）語に訳した岩手県大船渡市在住の医師山浦玄嗣さんの『なぜ』と問わない、福音を宣言する神父として知られるカトリック司祭晴佐久昌英さんの『恐れるな』。

タイトルはそれぞれのエッセンスを端的に示し、一冊八〇ページの小さなブックレットは、六冊通して読むことで震災の実態が立体的に浮かび上がる重層性を持つ。シリーズの特徴は、講演やインタビューを

基に編まれている点であり、あらかじめ文章として推敲されて成立したわけではない。だからこそ気迫に満ちた激しい表現、感情がほとばしるようなレアな物言いも散見されるが、それがストレートに胸に響く。六冊に共通して流れるのは「熱」である。

宗教をステレオタイプ化する
メディアを批判

すさまじい揺れと津波を体験し、被災地での大混乱の中で医師として奮闘した日々を語ったのは山浦さん。「踊りを踊っている」医療機器を渾身の力で押さえつけ、土地のたたり神を叱り飛ばす。逃げ遅れたことよって逆に津波から難を逃れ、薬が足りない中で押し寄せる患者たちを開業医として診察し続ける。貴重なドキュメントである。非常時にあつても陽気な気仙衆とのケセン語での会話がふんだんにつづられている。胸に染み入るようなやりとりがある。そんな山浦さんが怒る。東京のメディアが判で押したように何度も何度も発したこ



日野原重明

んな質問に対して。「実直で勤勉な東北の人が、なぜこんな目に遭わなければならいいのか?」。大切な人を亡くした数多の気仙衆とともに涙を流してきた。しかし、信心深い彼らから「なして、おらアこんな目に遭わねアばなんねアんだべ」という恨み言を聞いたことは一度もないと語る。

気仙地方には四〇年に一度くらい大津波が来て、人口の二割か三割がさらわれてきた。人の死は悲しいことだが、それを「なぜ」と問うことは意味がない。大体、生を受けるときから人間は災害の連続であり、最終的に誰もが死ぬ。メディアの問いかけは「お前たちの信心は何だったんだ」と言わんば



片岡輝美

かりで、満身創痍の身に塩を塗り込むような意地の悪い質問であり、人の心を絶望で腐らせる猛毒だと厳しく評する。

ヒマだからそんな問いが出るのだとの山浦さんの結論付けは、彼我のギャップに無頓着な、さらに言えば、信仰そのものをステレオタイプな形でしか理解しない一般メディアのありようを鋭く突いている。この世界に身を置く者として重く受け止めざるを得ない。

人々を分断する 放射能の恐怖

福島県会津若松市在住の片岡さんの怒り

をめぐって人々の心が分断される苦しみがいかにつらいことか。特に子どもたちをめぐる状況の切実さが胸に迫る。

「福島第一」という暗合

福島第一原発事故は、退避が選択ではなく、生まれ故郷へ立ち入ることすらできなくなった人々を多数生み出した。震災直後、福島第一聖書バプテスト教会の信徒たちは、危険な吹雪の山越えをし、東京の奥多摩福音の家に一年間にわたって身を寄せ、その後福島県いわき市に落ち着く。

佐藤さんは旅の途中でホームページを立ち上げ、この「流浪の教会」の様子を発信



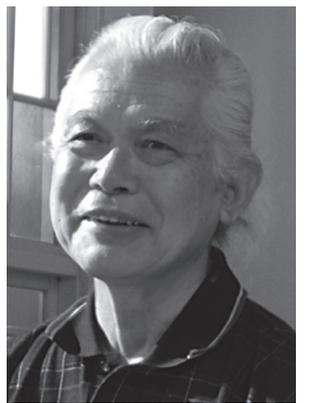
佐藤 彰



奥田知志

し続けた。あるアメリカ人がこのページを海の間こうで毎日泣きながら読み、義援金を奥多摩に持ってきてくれたというエピソードがあった。原発事故がもたらした惨状の中で、ネットが運んできた善意に心温まる。

流浪の旅は生半可なものではない。それでも佐藤さんは、故郷に帰れても帰れなくても人生は旅そのものであり、その過程が大切だと言う。「一生分泣いたけれど、涙をふいて立ち上がることが大事なのです。一人では無理だけど、みんなで力を合わせたそのプロセスを神様は見ているのです」。こうした言葉に出会うとき、また、福島



山浦玄嗣

も激烈である。福島第一原発事故後、とどまるのか、逃げるのかの選択を迫られる。逃げないと周囲の危機意識が変わらない。友人からのそんな指摘を理解するものの、逃げることは仲間を見捨てることなのではないか。迷った末に退避するが、イエスを見捨てた弟子に自分を重ね合わせて苦しむ。それを癒やしてくれたのは避難先での何気ない日常の暮らしだった。

「国は非常時に国民を守らない」。この認識に基づき、仲間と共に危険を見抜く力に身をつけようと奮闘し、安心・安全キャンペーンを繰り広げる科学者への怒りを爆発させる。放射能への恐怖は当然だが、これ

第一聖書バプテスト教会と、後になってきた福島第一原発という二つの「福島第一」の暗合を「選ばれてここに立つ」と捉える感覚を知るとき、筆者は信仰の持つ力にあらためて瞠目するのである。

「邂逅」の大切さを説く

困難な状況は変えられる、人生には使命があり、出会いによって運命はデザインできる。苦難は運命ではない。日野原さんは最近、この発想を基本にしているという。震災で感じたのは、人のいのちはいっ取り去られるか分からないこと。ただ、明日いのちが取り去られようとも、前向きな人生



晴佐久昌英

には意味がある。一世紀以上の人生を積み重ねてなお、「邂逅」の大切さを説く日野原さんの語りが実に味わい深い。

自己責任論の欺瞞

このシリーズを読んでいると、キリスト者とは、つくづく言葉の人のだと実感する。立ち止まり、思いをめぐらせてしまう言葉やフレーズが数多く出てくる。そんな言葉の一つに「自己責任」があった。

晴佐久さんはこの言葉が嫌いだと言っている。

「いったい誰が本当に自分で責任を取れるのか」と喝破する。晴佐久さんの座右の銘は「自分のことを棚に上げる」。その開き直りが大切なのだ、でないと、福音は語れないと言っている。「あなたは必ず救われる」の「必ず」が大事。一人ひとりに対して「だいじょうぶだ」と言い切ることが大切。「あなたが救うわけではない、神が救うのだから」。説明するのではない、宣言するのだという、晴佐久さんの取り組みが、ノンクリスチャンである筆者の腑にもストンと落ち

た。

絆は「きず」を伴う

さらに「自己責任」という考え方の問題点について考察を深めるのは奥田さんである。震災支援に赴いた現場で「絆」の大切さを痛感したが、どうも世間一般で流布されている絆はリスクヘッジの手段と捉えられているものもあって、相互性を欠くと奥田さんは考える。出合いは双方向的であり、ある種の「面倒さ」を伴う。つまり、本来、絆を結ぼうとすれば傷つくことがあり、「きずな」が含む「きず」を回避すれば、絆は結べない。だから踏み出す勇氣が必要なのである。傷つかないための武器が「自己責任」論であり、これは関係性を絶つための言葉だ。

奥田さんは自己責任社会が奪った大切な言葉として「助けて」を挙げる。「助けて」と発することは一種の信仰告白であり、この声に耳を傾ける必要がある。イエスが自分たちと絆を結ぶために傷を引き受け、そ

の傷によって癒やされたにもかかわらず、自分たちは「自己責任」の名の下において傷ついた人々を放置する。それでよいわけはないだろうと迫る。

熱を発するような奥田さんの発言録を読み、以前、取材で出会ったホームレス支援に打ち込む仏教の尼僧が「まずやってみること。みんな、やらない理由を探すんです」と静かな怒りを持って語ったことを思い出した。

東日本震災は、政治経済から日々の暮らしまで、あらゆる領域に傷を与えた。その傷は複雑かつ多岐にわたる。内奥に到達した刺傷もあれば、表面がざつくりと広範囲に割れた裂傷もある。見ただけで深手と分かるものもあれば、内部の組織のみが激しく破壊されたものもある。その重要な癒やし手として宗教者は存在するはずだ。傷とともにあるその姿に信仰の光を見たいと思う。

(にしで・たけし共同通信編集委員)

3.11を忘れないために—6人の熱いメッセージに耳を傾ける

TOMOセレクト

3.11後を生きる

2011年3月11日以降、この国では様々な言葉が語られてきました。それはあたかも言葉の洪水のように。震災以来、言葉の力が試され続けています。本シリーズは、著者一人ひとりが、与えられた状況と向き合い、格闘し、存在をかけた問いかけをする中から紡ぎだされたものです。 ●各冊 四六判 並製・80頁・840円

選ばれてここに立つ

佐藤 彰

福島第一聖書バプテスト教会牧師

原発から5キロの教会の旅路

原発から5キロに位置する福島第一聖書バプテスト教会が経た旅路とは。この群れの牧師として立てられた著者が、震災を振り返り、語る。



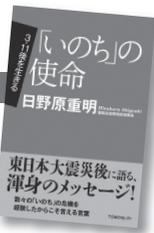
「いのち」の使命

日野原重明

聖路加国際病院理事・名誉院長

遺された者の使命とは

日頃より「いのち」の尊さを訴え続ける著者が、失われた「いのち」の意味、遺された「いのち」の意味を考える。著者渾身のメッセージ!



「助けて」と言おう

奥田知志

北九州ホームレス支援機構理事長、牧師

「絆」社会の中での孤立

ホームレス支援の現場と震災支援の中で見えてきた、傷つくことを恐れて自己責任論の中に逃げ込む現代人の心のあり方を問う。「絆」とは?



今、いのちを守る

片岡輝美

会津放射能情報センター代表

被曝の脅威に立ち向かう

震災後、思いを語り合い、現実をつかもうと歩みだした福島の親たち。今ここでいのちを、福島の子どもを守るために手をつなぎ声を上げる。



恐れるな

晴佐久昌英

カトリック司祭

神の言葉を今宣言する

被災地の人を前に何を語ることができるのか。「福音を宣言する司祭」が被災地で宣言した福音のメッセージ。「宣言する」力の源に気付く一冊。



「なぜ」と問わない

山浦玄嗣

ケセン語訳聖書翻訳者、医師

被災地ケセンから見た3.11

津波によって失われたいのち。「神がいるなら、なぜ」の問いへの答えとは。その答えの意図するところを「祈り」の神髄からひも解く。



新約理解の上でも重要な旧約偽典の一書
偽フィロン著

井阪民子、土岐健治訳

聖書古代誌
ユダヤ古典叢書



保坂高殿

本書は、アダム誕生からサウル王の死に至るまでの聖書本文について、系譜と物語を、時に異伝承をも織り混ぜ聖書を補充しつつ一巻に要約して綴った文書である。したがって、叙述全体の外面的形式という点では『歴代誌』やヨセフス『ユダヤ古代誌』に類似するが、聖書物語に対する独自の素材、解釈、敷衍を織り混ぜた点では、「小創世記」と呼ばれる『ヨベル書』やクムラン文書中の『外典創世記』に類似し、その意味でミドラシユ・ハガダーの文学類型に属し、旧約偽典に分類され得る。現存するのはアルケト・ユポスに遡る二一のラテン語写本と一五二七年のシカルドウスによるラテン語初版本だけだが、セム語からの不適切な訳と解釈しない限り説明困難な箇所が数カ所あることから、ヘブル語原語説は今日ほぼ定説化している。また、一五六六年シスト・ダ・シエナがギリシア語の一節を引用していることから、ヘブル語原本は一度、成立後早い時期にパレスティナ地域のユダヤ人のためにギリシア語訳され（後に散逸）、それが四世紀にキリスト教徒の手でラテン語に重訳されたと推定される。四世紀末以降は会堂から教会への改宗者が増

大してユダヤ教文書がラテン語に翻訳される素地が整っていた。ウルガタの他、ギリシア語の『教会史』や教父文書のラテン語訳が数多く公刊されたのもこの時期であった。

成立年代については、一世紀成立説が今日の主流だが、これにはさらに七〇年以前説と以降説の二説が並存する。後者は主に「第四の月の一七日」（一九・七）が七〇年の大惨事を、また、「今日に至るまで」（二一・八）が神殿の不在を暗示する点に依拠するが、前者はこれを認めず、七十人訳を想起させる古い文体の他、本書のような聖書本文の改訂版は七〇年以降類例を見ないことを強調する。両説ともに決定打はない。しかし、本書には殉教思想が色濃く反映し、かつ、背教誘導を目的とした猶予期間の付与（六・六「七日」）はローマ属州当局が被告信徒に熟慮機会を提供し始めた二世紀中葉の状況を窺わせるため、評者はジェイコブソンの二世紀成立説を支持したい。聖書本文に比しての内容的特徴としては、特に新約理解の上で重要と思われるものに、福音書イエス生誕物語の伝承形成への寄与（九章のモーセ生誕物語）の他、動物犠牲（二二章）か

ら人間犠牲への重点移行（二八章、三三章、四〇章のイサク）がある。タルグムにも言及されるアブラハムの炉中投棄はダニエルおよび三人の若者（教会および第四マカベア書にとって旧約殉教者のプロトタイプ）を想起させ、イサクも自己犠牲を厭わぬ敬神者の方向に脚色されているように、聖書では専らアブラハムの信仰の真正性に重点があったのに対し、本書ではアブラハム父子が共々プロト殉教者へと変容し、第四マカベア書の殉教七人兄弟への賛辞に通じている。

本書は、メシア思想こそ希薄であるもののキリスト信仰の宗教史的背景の解明にとつて重要な文書である。献身性（忠実さ）と贖罪はユダヤ思想圏にあつては元来別個に存在していた表象であったが、それが徐々に相互接近し、一世紀に至り合流したのだから。新約では、神への忠実さを称えたフィリピ書二章のキリスト賛歌と人間（イエス）贖罪の思想とが並存する。二世紀以降のキリスト教殉教思想においても前者は殉教概念の

主観的側面を、後者は客観的側面を構成する。

邦訳について一言すれば、訳者井阪民子氏（土岐氏が執筆した「あとがき」による）の訳文の正確さ、簡明な文体、そして訳文とほぼ同じページ数を費やして書かれた「訳註」での、異読についての周到な検討が際立っており、翻訳本としての質的水準は高い。「解説」部冒頭の内容紹介も目次に代わって鳥瞰図的な役割を果しており、読者の要望に配慮されている。ただ、残念なのは、一九九〇年に同じ教文館から出版された『殉教者行伝』には訳者土岐氏により詳細な語句索引が収録されたのに対し、本書にはそれが無いことである。非常に惜しまれる。最後に、巻末「参考文献」から漏れてしまった一読の価値ある論考を一編だけ紹介しておきたい。土岐健治「新約聖書研究賞書」『一橋論叢』一〇六巻第三号（一九九一年）三三―三二七頁。

（ほさか・たかやち千葉大学文学部教授）
（A5判・二九二頁・定価五二四五円（税込）・教文館）



聖公会出版

ヘンリ・ナウエン

その生涯とビジョン
M・オラフリン著
廣戸直江訳



キリスト教霊性の著述家として多くの作品を残したナウエン。その幼年期から死に至るまでのナウエンの生涯を写真と彼の語ったことばで綴る。本邦未公開の写真も多く掲載。A5判・212頁・定価2100円

礼拝はすべての人生を変えてゆく

～その働き、その大切さ～
ポール・ブラッドショー 編
榊原芙美子 訳



現代英国の礼拝学の碩学ブラッドショーは「教会はいつでも本来あるべき姿になってゆく途上にある」と唱える。そんなブラッドショーが若い世代に問いかけた名著の翻訳。全編カラーの美しい映像の中で、礼拝の神髄が語られる。A5変形・52頁・定価1575円

アダム—神の愛した子

H・ナウエン著／宮本 憲訳



大学で神学を講じていたナウエンは魂の遍歴の末に行き着いた障害がい者が集うラルシュでアダムと出合い、アダムの中に神の存在を見る。改訂新版。四六判・176頁・定価1890円

162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL03-3235-5681/FAX03-3235-5682
nssk-bookshop@company.email.ne.jp

卓越した歴史家の絶筆ともいっべき書
土肥昭夫著

キリスト教会と天皇制 歴史家の視点から考える



山口陽一

土肥昭夫氏が召されてから五年になろうとしている。突然の訃報に接し、類まれな歴史神学者の洞察にもはや学べないと落胆したことを思い起こす。しかし、妻淳子氏により同氏の円熟した研究が世に送り出されていることに感謝したい。

『各個教会史をどう書くか』（二〇一〇年一月）、『天皇とキリスト』（二〇一二年四月）、そして本書である。『天皇とキリスト』は、副題として「近現代天皇制とキリスト教の教会史的考察」を掲げる十六篇の学術論文集であり、この本について淳子氏は言う。「これは手軽に読めるものではない。そこでキリスト教と天皇制を主題とした読書会などでも使える手軽な新書版を作ることになった」。それが本書である。内容から言えば、日本キリスト教史最大のテーマであり重く複雑である。しかし、新書の「手軽」さだけでなく、エッセイ風の論説、奨励、講演、そして靖国・天皇制問題情報センターを応援するために書かれた文章のすべてが座談のような親しきで語られているゆえにわかり易い。しかも収録されたものはすべて他に転載されていないものであるからありがたい。

第一部「歴史への責任」の冒頭には、土肥氏が天皇制について書き始めた初期の作品である「天皇制を考える」（一九七二年）、「天皇制とキリスト教」（一九七六年）が置かれている。前者は「天皇制に対してうらみ、つらみはつきない」という自身の経験から語り始め、後者では「ことばのあや」発言で知られる一九七五年の天皇記者会見を批判し、キリスト教の長い歴史の射程で、タブーより解放された眼をもって天皇制を見据えることを自らの務めとしたことが語られる。「戦前・戦中のプロテスタント・キリスト教の歩み」（二〇〇〇年）は基督教共助会京阪修養会における講演をもとに執筆したものであり、「キリスト教会と天皇制」の概観としてよくまとまっているので『天皇とキリスト』への入口としてお奨めしたい。

第二部「歴史の証言」は、月刊『靖国・天皇制問題情報センター通信』の「巻頭之辞」五十五篇で、二〇〇三年九月から二〇〇八年三月まで、毎月「近現代天皇制とキリスト教」と題し、同センターのために「どんなに忙しくても欠かさず寄稿し続けた」（淳子氏）ものである。各篇は一〇〇〇字の小篇であるが、

手抜きはまったくない。各テーマの最重要点が出典明記で紹介されており、学問で反ヤスクニ運動に関わろうとする土肥氏の思い満載である。

日本のキリスト教会は天皇制の宗教的権威と政治的権能に対峙してスタートした。その対峙の仕方の振幅がまず語られる（一〜八篇）。すなわち国会開設の詔勅に感激する小崎弘道は「まんまと政府の宣伝にはめられた」のに対し、備中高梁で自由民権運動を闘った柴原宗助には問題の所在が見えていた。キリシタン禁令の高札撤去や憲法二八条「信教の自由」に感謝と忠誠の意を表した教会は安直であったが、この憲法により一小学校児童の権利を確保した熊本県山鹿小学校児童退校事件におけるキリスト者の連帯もあった。次いで内村鑑三、植村正久、山路愛山、巖本善治、柏木義円の天皇観が紹介される（九〜三九篇）。植村も巖本もそれなりの評価はあるが、「吾人奚ぞ亡ぶべき生命の為に亡びざる良心と真理とを殺すべけんや」という

山路の言葉を引いて、その「良心」が高評されるのに比べると植村は評論家風であって「内村が（不敬事件の）あの瞬間に覚えた戦慄やとっさの判断に基づいた行動を理解したことにはならない」と手厳しい。天皇制批判で山川均が逮捕され有罪とされた時、「氣ノ毒ニ堪ヘス」と日記に記した柏木のやりきれない思いを推し量りながら、土肥氏は「日の丸・君が代問題で処分を受けた多くの公立学校教師たちの苦衷を想う」。こうした歴史記述の合間に、宮田光雄氏、奥平康弘氏らのエピソードが挿入され、この闘いにおける仲間の連帯を語るくだりは温かい。終盤には天皇の代替わりに対するキリスト教会の対応が紹介され、プロテスタントとカトリック、それぞれの神社問題に対する対応を記して終わる。最後の『通信』の日付は、土肥氏の召天の日である。

（やまぐち・よういち）東京基督教大学教授
（新書判）二六〇頁・定価一七八五円（税込）・新教出版社

10代と歩む 洗礼・堅信への道

朴憲郁／平野克己 監修
大澤秀夫／寛伸子／田中かおる／古谷正仁



10代、特に小中学生への洗礼・堅信（信仰告白）準備教材。志願者が楽しめるように工夫された。だれでも実践できる多彩な参加型プログラム。
B5判・144頁・2100円

旧約聖書と説教

越川弘英／平野克己／大島力／並木浩一



「旧約聖書の説教はこんなに面白い」と思わせる、旧約学の最新成果を説教に生かすヒントを、学界の最先端で活躍する四人の著者が語る。アメリカの説教実例二編も収録。
A5判・128頁・1260円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eiyou@bp.uccj.or.jp（価格税込）
<http://bp-uccj.jp>

永遠のいのちは未来のことではなく、既に与えられている！
山下万里著

死と生 教会生活と礼拝



三浦 修

ヨベル社主、安田正人氏よりの書評依頼をお受けした理由が二つあります。第一は、著者山下先生には日本基督教団関東地区埼玉地区で同労者としてご指導を賜ったこと、加えて先生が召天された告別式で関東教区総会議長であった私が弔辞を述べさせていただいた所が東所沢教会であったこと。

第二は、文中の先生の愛唱讃美歌「山路こえて」にまつわるエピソードが心に深く刻まれていたことです。私が神学校を卒業して開拓伝道を志した時、先輩のS牧師が牧会を離れて聖書頒布の仕事に就いておられました。少しでも家計の一助にと、旅館をとらず野宿された折に、この讃美歌を口ずさみながら眠りについたとお話を直接聞かされたことでした。

今日の東所沢教会の開拓伝道に従事された山下先生のご苦勞を推察し共鳴したことです。

- 本書の中に納められている八篇の説教、①感謝（Iテサロニケ五・一六〜一八）②親切（ヨハネ二三・一一〜一七）③創造（創世記一・一〜三、三二）④祝福（IIコリント二三・二三）⑤教会暦（使徒言行録二十・七〜十二）⑥教派（エフェソ四・

- 一〜六）⑦死と生（一）（ローマ六・一〜一二）⑧死と生（二）（ローマ六・一〜一二）が南沢集會という家庭集會での説教であったことの驚き、準備された先生の信仰と博識（仏教、ヒンズー教、儒教、哲学などの分野に及ぶ）、聴衆の傾聴姿勢の真剣さが伝わってきました。また巻末の「十四年をふり返って（抄）」も楽しいエッセイです。以下の書評は本の標題「死と生」より⑦死と生（一）、⑧死と生（二）を重点的に述べることです。

死と生（一）について

人生観とはその人の行動を決定する一つの規範と定義されたこと、そこには（イ）建前の人生観と（ロ）本音の人生観があると分析されたことに改めて領かされたことです。次に死生観——（生のほうは人生とし、死ということに対する考え）——これにもその人の行動を決定する規範があると考えられています。

「死」とは知的な学びではなく体験的な学びでなければならぬとして、生から死を考えるのではなく、死から生を考へ、既に与えられているとされていることに励まされまなく、既に与えられているとされていることに励まされまなく、終わりに二〇〇四年一月二十一日の山下先生の葬儀で後継者、深見祥弘牧師の式辞を引用します。「召天された一月十八日の未明、山下先生はベッドの上に身を起こされ、先生、先生」と呼ばれたそうです。看護師さんは急いで担当の医師（クリスチャン）を呼ばれました。しかし医師は自分を呼んでいるのではなく、ラビ、ラビ」と主イエスに呼び掛けておられるのだと思われたそうです。

この朝（主の日）、復活の主のお姿を見、その名を呼び、すべての苦しみから解放されて天国へと旅立たれたことと思えます。……」まさに「死と生」について本書を書き残された山下先生に適切な生生涯でした。

（みうら・おさむ）日本基督教団埼玉和光教会牧師
（新書判・二七二頁定価一四七〇円（税込）・ヨベル）

え、捉えることの重要性を昨今の死に対する医療現場での現状を指摘されます。死に至る病い」を持った患者が最後を迎える時、ほとんどの家族が愛する人の死に立ち会えない点、患者と生前に深い絆を持った方々との「会話」と「看取り」が保証されるべきだと強調されます。

「天国で再会しよう」との約束を双方が確認したいからです。著者は本篇の最後に、キリスト教に於いて「正に死というものを乗り越えようという事柄が起こってきたのです。そうしますと私たちの生も、はじめて本当の意味を持つようになると思います。」（二〇六頁）と結ばれています。

死と生（二）について

著者が本篇で一番強調されていることは、永遠の命です。引用聖句として「神は、その独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネ三・一六）を取り上げられます。永遠の命が与えられるのは未来のことでは

7172
ネヴィル・タン 著
金本美恵子 訳
「鉄人」と呼ばれた受刑者が
神と出会う物語

7172
ネヴィル・タン 著
金本美恵子 訳
「鉄人」と呼ばれた受刑者が
神と出会う物語

7172
ネヴィル・タン 著
金本美恵子 訳
「鉄人」と呼ばれた受刑者が
神と出会う物語

山下万里・著
死と生
教会生活と礼拝

古代イスラエルやギリシアの死生観からキリスト教信仰における死と復活の理解までを精察しながら、キリスト教信仰の根幹を平易に解き明かす。巻末に附録。
*ヨベル新書 007・272頁・1,470円（税込）

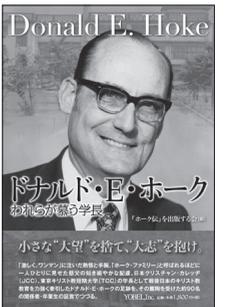
あかし文章道
への招待 池田 勇人・著

文章力を極める！ぐんぐん文章がうまくなる、あかしする言葉が豊かになる！そんな入門書が登場！自分史や手紙を書くことまで極め細かい配慮に満ちた好著！
*ヨベル新書 012・256頁・1,050円（税込）

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

東京基督教大学・前身校の創設者の精神と結実の証し
『ホーク伝』を出版する会編

ドナルド・E・ホーク われらが慕う学長



高見澤栄子

「日本での21年間にわたる奉仕は『幸せ』につきます。」師が来日した一九五二年は、日本がまだ戦後の復興に慌ただしい時代。いろいろな不便な生活だったろうが、それを「幸い」と覚えるほど日本を愛し、師弟育成に情熱を注いだドナルド・E・ホーク師とマーサ夫人。この書は、夫妻が日本のキリスト教界に残した神と人への愛と献身とその結実の軌跡である。

師が日本に抱いたビジョンは、聖書の真理、イエス・キリストの福音、聖霊の力に生きるクリスチャンを、牧師、信徒を問わずに育成するという、師の母校ホイートン大学を模範とした大学を日本に建てるというものだった。任期中東京に二つの神学校を設立するために、師の努力は遠く本国に及んだ。ある時どうやっても土地の支払いができないという危機に面した事があった。師は学生たちも巻き込んで、祈りによる克服という方法で乗り越えたが、その証しは多くの卒業生の忘れられない思い出として記されている。こうして建てられたJCCは、後に日本基督教学校、東京キリスト教短期大学、共立女子聖書学院の三校が統合したTCUとなるが、この学舎から輩出された卒業生たちは、今の日本のキリスト教の土台を築き支えてきた重

要なリーダーたちだということが、第3部、4部によせられた教職者と卒業生のそうそうたるメンバーで分かる。

しかし、ホーク師の幻は日本国内のリバイバルにはとどまらなかった。一八〇四年「馬草の山の集まり」の祈りから発生した米国での宣教のリバイバルのように、日本にも宣教のうねりが起きることを願っていた。ローザンヌ世界伝道会議で事務局長という大役を務めたホーク師である。師の視野には、宣教地は日本だけでなく、「地の果てまで」の国々が入っていたのだ。イエス・キリストの大宣教命令を真摯に受け止め、「ドーナツの穴を見つめがちな日本人」へ、大きな視野と世界大の展望を持って！と熱く語る中に、師の日本人キリスト者への期待が伝わる。実際の師の宣教の情熱は、日本の第一期の宣教師たちの中に多くのホーク・チルドレンが居たことの中にも現れている。また、現在TCUで毎年もたれる世界宣教講座はその結実の一つだと倉沢師は語る。

教職者と卒業生のことばの中には、読みながら心躍るようなエピソードがちりばめられており、時に赤裸々な告白の中にも、ホーク師夫妻の信仰とひととなりを描きだされている。彼らの

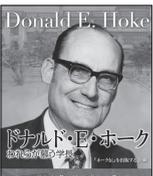
思い出の中のホーク夫妻は、神学や信仰だけでなく、師弟たちの生き方にもおきな影響をおよぼしたホーク・ファミリーの霊的な大黒柱だったことがうかがえる。台湾宣教に従事した鈴木敏子師は、ホーク師が台湾を訪れる度に出会い、別れ際には「誇りにおもう。」と言われたという。鈴木師も、「先生の教え子であることを誇りにおもう。」と返したそうだ。お互いを誇りに思えるうるわしい師弟関係は、思い出を綴った七十九名の卒業生の証しのそれぞれにうかがえる。

師は二〇〇六年に地上の働きを終えて天に凱旋された。その時のアメリカでの葬儀は、「ドナルド・ホークの生涯を喜び祝う会」としてもたれたという。それは笑いすら起こる恵みあふれる会だったと参加した卒業生が書いている。主を喜び、天に焦点をあわせ、隣人への愛にあふれて生きた師にふさわしいお別れの仕方だったと思う。

あとがきに故西満師が、「本書は単なる思い出集ではない」

われらが慕う学長

ドナルド・E・ホーク



『ホーク伝』を出版する会 編
小さな大望を捨て、大志を抱け！
本書は単なるホーク先生の記念集、思い出集ではありません。ホーク先生の信仰とビジョンが、東京基督教大学の前身校である日本クリスチャン・カレッジ、東京キリスト教短期大学の設立にどのように生かされたかを示すものです。
(西満師本意とがきより) *A5判三二八頁・一八九〇円(税込)

自費出版の専門出版社 あなたの原稿を 本にしてみませんか？

教会記念誌、教会史から説教集、短歌集などご要望にお応えし、親切・丁寧に編集！

本に関するご質問大歓迎！
見積もりは無料です！

ヨベル新書の仲間として、
自費出版・絶賛発売中の2冊



株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL 03 (3818) 4851

と綴っているように、この本の前半に載せられたホーク師の講演集は、師のイエス・キリストへの信仰と大宣教命令に応答した献身の証しであり、JCCの建学の精神と歴史の記録である。それを讀むと、ホーク師にまだあったことの無い読み手をも、あたかも師の学校に在学した一人だったような錯覚に誘ってくれる。「この世ははかなく瞬くまに過ぎ去る。ただクリスチャンがみこころに従って行った仕事だけがいつまでも残るのである。」ホーク夫妻の宣教とそのスピリットは、師が天に帰られた今もその師弟たちに受け継がれている。そして、編集長だった西満師をはじめ何人かの執筆者は、この書の完成をまたずに天に凱旋した。この本はまさしく今でなくては残せなかった貴重な思い出の記録であり、ホーク夫妻の日本での宣教の足跡をしっかりと刻んだ貴重な記録である。

(たかみざわ・えいこ) トリーチトリニティ神学大学院准教授
(A5判二三四頁・一八九〇円(税込)・ヨベル)

現代に伝えられる申命記の生きた説教集
宮村武夫著

存在の喜びをあなたに 宮村武夫著作2
礼拝に生きる民——説教 申命記



坂井純人

本書は、不思議な読了感をもたらす。著者である宮村牧師の語り口調が聞こえて来るような実感と共に、申命記を通して、モーセおよび神の民に語りかけられた当時の神からのメッセージが、現代に生きる私たちに生き生きと伝わってくる。これは、著者が、御言葉そのものに捉えられていると同時に、テキストそのものの構造を、明確に把握しているからにはかならないからであろう。また、信仰者が生きる現実を知りつくした牧会者の目が存在する。申命記の中心主題の一つである、「神の民が、試練の大きい、新しい土地で、いかに、神の民としてのアイデンティティを確立して生きるか」というメッセージを現代に生きる会衆に向けてのちがいで、取り次ぎ、語った形跡が、随所に伝わってくる語り口となっている。

これは、ある具体的な個性を持つ説教者がある特定の会衆に語っても、神の言葉は、普遍的な輝きを持って、現代人に、当時のメッセージを伝えてくれることの実例である。神の言葉が生み出すいのちを味わい、分かち合う奉仕に生きる一人の牧会者、説教者の生きざまに思いを馳せ、胸が熱くなる思いにさせられた。生ける神の御言葉に生かされ続ける説教者が、神の言

生活の中に、ただごとではない神の恵みを見抜く信仰の目を与えられていた(四七頁)。このような言葉が、礼拝は、この恵みの現実へと私たちの目を再び、開かせ、どんなに荒々しい異教の生活環境の中にあっても神の民としてのアイデンティティを形作る神の恵みの力であることを示す。

全体は、一九回の説教で構成される。説教題の例を挙げると「主はただ一人」、「礼拝とは」、「のろいを祝福に」、「現状の中でも」、「主の御前に礼拝」、「みことばは、あなたの「く身近に」、「教会教育の継続と目的」、「しあわせなイスラエルよ」、「主の命令によってモーセは」等々。これらの選択された説教主題と具体的な説き明かしによって、申命記全体の内容と中心線とがより一層、浮き彫りにされる。一読して明らかかなことは、何が、私たちの信仰生活の課題の中心なのか、解決に向けての主の御教えは、何なのか、明瞭なのである。

宮村師の説教の特色、それは、一つの御言葉を軸に、メッセ

山口勝政 [著]——日本宣教師神学
閉塞感からの脱却



《日本における「宣教の神学」の提唱!》
日本の教会のともしびはだれが守っていくのか! 日本の教会に垂れ込める閉塞感の重い雲! その正体を聖書に照らしつつ多角的に解明し、宣教の未来を切り拓く! 地方伝道の最前線から生まれた日本宣教のための神学論!
*9月13日発売! *A5判 二四八頁・一八九〇円(税込)

葉に生かされる民を形成する働きに、いのちを注ぐ時に生まれる共感を御霊が生み出し続けてくださっているからであろう。

本書は、『礼拝に生きる民』という題に相応しく、唯一、礼拝を受けるべき栄光の神が一人であられる啓示の真理に始まり、この御方との契約的、人格的交わりに生きる現実の生活が、全地に、また、日々、どのように具体化すべきかを力強く、聴衆・読者の心に告げている。遣わされた土地での環境、日常生活そのすべてが、神の御前で捧げられる礼拝の一貫であること、を強調してやまない。また、神の恵みの現実を感謝し、伝え行く使命を結婚・家庭、信仰の継承の大切さを通して明示する。宣教の基盤は、どこにあるのか、神が与えられた男性と女性、夫婦の絆と親子の関係、そのいずれもが、神の恵みの備えであることを改めて、御言葉から説き起こす。そこから、主イエス・キリストの贖いを通し、神の恵みのみによって救われた罪人の現実が、神の栄光を現す現実へと変えられて行く。神の主権的救いの御業＝原救済が、日々の礼拝を通して、罪多き世の中にあっても豊かな祝福を受ける現実へと変えられて行く＝現救済(四二―四八頁)、「今週の日常生活、当たり前前の毎日の

ージの中心と展開が具体的に心に語りかける言葉となって、聴く者の心に注ぎ込まれて来るもの、と云えるだろう。

福音宣教とは、唯一の神礼拝と主との人格的交わりを中心として、そこから生み出される喜びを共有する輪の広がり、深まりをも意味するだろう。収録された説教の前後を挟む、宮村師を敬愛してやまない人脈に連なる方々の証しも、真の神の似姿にかたどって造られた人間性が主と人との交わりの中で回復する喜び、光栄をも力強く証言するものである。「絆」を巡る問いの絶えない昨今、真実な神の愛に生かされる礼拝から生み出される喜びの輪は、必ず、現代にも伝えられて行く。礼拝にはその力がある。本書は、そのような希望を読者に抱かせる申命記からの熱いメッセージであり、宮村師の生きた証しである。

(さかい・すみと)北米改革長老教会 日本中会 東須磨教会牧師、神戸改革派神学校講師、神戸神学館教師

(四六判・二五六頁・定価一八九〇円(税込)・ヨベル)

最新刊
宮村武夫著作②
礼拝に生きる民
説教 申命記

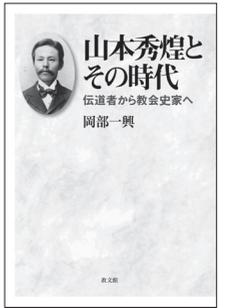
使徒パウロの宣教姿勢がよみかえる書簡的講解説教!
着任までの2年間を東京・青梅と沖縄・首里の間でかわされた朗読説教! 宮村師「...しつ...つ...で読む」が見事に開花したところ熱くなる説教!
●46判・256頁・1,890円



株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

「伝道者から教会史家」への道筋を示す
岡部一興著

山本秀煌とその時代 伝道者から教会史家へ



五十嵐喜和

本誌の読者の中にも、山本秀煌とは何者かと思う方がおられるかも知れない。「内村鑑三や植村正久のように、その派の指導者としてダイナミックに生きてきた人物と違って、……一見社会思想的にみて目立った動きをしてない」（六頁）ために、余り知られていないからである。しかしそれは「一見」であって、その働きは、日本のキリスト教会にとって忘れてはならないものであることが、ここに初めて明らかにされる。本書は、フェリス女学院史料室発行『あゆみ』に連載されたものを基礎に、この程一冊に纏められた。

山本秀煌（やまもと・ひでてる）は、一八五七年丹後国峰山藩の奉行職岩井磯根の三男として生まれ、幼少時より漢文学を修業し、峰山藩御蔵奉行の養子となった。東京の私立独逸学校を経て一八七三年横浜のヘボン塾で英学を、そして一八七四年八月横浜公会で宣教師J・H・バラから洗礼を受けたのちはブラウン塾で英学及び神学を学び、一八七七年九月には東京一致神学校に入学、後に日本基督一致教会で准允、そして按手を受けた。著者は、山本秀煌の日記から、当時の神学生・教職が英

語に堪能であった一方、讚美歌を歌うのは苦手で、植村正久と名古屋で伝道をした折、説教前後の讚美歌は、オルガンもなく、詩吟か義太夫からなくなり、切り上げて説教に移ったというエピソードも紹介する。牧師・伝道者として高知教会、住吉町教会、指路教会、(米国留学)、山口教会、大阪東教会を歴任。又フェリス・セミナー、住吉小学校、そして一九〇九年からは明治学院神学部教授として、教鞭をとった。日本基督教会では、長期に亘って大会書記、四度の大会議長、伝道局理事等の責任を果たした（一九四三年没）。

これら山本秀煌が歴任した諸教会、諸学校を中心として、本書はさながら日本基督教会史、ひいては、日本のキリスト教史である。しかも牧師・伝道者、教師の働きが、時代的背景の中で捉えられ、社会思想的意味を持ったものでもあることを、明確に示す。個教会を軸にして、新神学問題や『日本の花嫁』事件等を織り交ぜ、興行き豊かに記述される。象徴的なのは、高知教会時代である。板垣退助と高知伝道の関係、そこでの民権思想とキリスト教思想との関わり、そして教会の急激な

発展等が辿られ、鋭く分析される。また第二章では、政府の宗教法案と一九二九年の宗教団体法案に対して山本秀煌が中心メンバーとして反対したことが紹介される。日本基督教会はもとより諸教派は、挙げてこの問題に取組んだ。

しかし、著者の山本秀煌論は、何と言っても副題のように、「伝道者から教会史家へ」の道筋を示すところにある。神学生時代名古屋伝道で経済的に逼迫し、新聞を借り読みして記事を丹念に書き記し、生きた歴史への関心を史料をもって綴り、このことがやがて教会史叙述の方法の基礎となっていると述べる。勿論漢字の素養が背後にある。本書には判明した歴史関係の著作が列記されている。中でも、一九二九年刊『日本基督教会史』（復刻版一九七三年）は、日本のプロテスタント・キリスト教会史の古典的名著である。長老制（プレスビテリアニズム）の日本基督教会が、中会（プレスビテリア）よりも大会（シノッド）中心であるかのような印象を与える一方、教会の自給独

立の主張のゆえに緊張関係を生んだ宣教師とその働きについて感謝と評価を過不足なく記す該書が、しかし如何に日本のキリスト教会史研究に貢献をしているか、その影響史も記述される。著者は明治学院大学に関係が深く、キリスト教史学会の重鎮で、日本基督教会横浜指路教会の長老である、書くべき人によって書かれた好著である。ただ一言。「教会浄化」は「教会訓練」とし、その項目の当事者は匿名の方が良かったと思われる。

（いがらし・よしかず『日本キリスト教会史』東京基督教社）
（A5判・三二〇頁・定価三九九〇円〔税込〕・教文館）



キリスト教信仰 Q&A

久野牧
Nozomu Hisano



何かを信じなければ、生きていけないのでしょうか。苦難があるのはなぜ？ 近い人の自殺を、どう受けとめたら……。

信仰にまつわる疑問の数々……。 「素朴な疑問」に、答えます！

四六判

定価 1,890 [本体1,800+税] 円
ISBN978-4-86325-006-2



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

珠玉の説教集！
大宮 溥著

神の国の福音 マルコ福音書講解説教 上



平野克己

本書は、既刊のヨハネ福音書講解説教『愛と自由の福音』（二〇一二年）に続く、説教集である。『希望の旅』（大宮チエ子牧師との共著、教文館、一九九七年）から数えると著者の第三説教集になる。

大宮先生が日本基督教団阿佐ヶ谷教会に主任牧師として着任されたのは、私が中学生の時。以来、高校、大学、神学校、さらに伝道師時代を含めると約十五年、私は大宮先生が語る聖書の言葉に耳を傾け続けた。私のいちばん大切な部分は、この牧師の説教によって養われた。

大村勇牧師時代に土台を築いた阿佐ヶ谷教会は、大宮溥牧師時代に礼拝出席者数が増加し、いつしか平均三〇〇名を数えるまでになった。しかも一九八〇年代に入ってなお、この教会は「若者の教会」を自称していた。上京青年がアパートを捜す阿佐ヶ谷という立地のせいもあるだろう。私の大学時代、一九八〇年代前半には、学生だけで五〇名が集い、伊豆大島の社会福祉法人施設で毎年七泊八日の自炊ワークキャンプを営むほどだった。収録された説教の大部分は阿佐ヶ谷教会で行われたもの

ではない。それでも、多くの若者たちの心を形成した説教がどのようなものであるか、文字を通して多くの方々にもふれていただけることを嬉しく思う。

マルコ福音書第一章から第七章までが収録された本書は、特別な説教集である。著者は「あとがき」にこう記す。

「五十年に近い教会主任担任教師の期間中に、このような形のマルコ福音書説教は実際に少なくとも三回行ったが、ここに収録されているものは一九七一年一月から七二年二月にかけて、雑誌『福音と世界』の巻頭説教として掲載されたものが中心になっている」。

このように、本書の大部分は、四〇年前に記された説教を修正し、文体を整えたものである。珠玉という言葉がある。海の真珠、山の宝石。そのように小さくも美しい光を放つ作品を指す形容詞だが、私は、本書を「珠玉の説教集」と呼ぶことをためらわない。四〇年の歳月をかけながら著者が磨き直していった説教なのである。

下敷きになった原稿は「読まれる説教」として記されている。

そのため、どの説教も比較的短く、八頁ほどに収められている。それだけに言葉に無駄がない。

さらに、ほとんどの説教に、著者の読書体験が出てくる。改革者のルター、カルヴァンはもとより、トマス・ア・ケンピス、ジョン・バニヤン、コールリッジ、キルケゴール、ドストエフスキー、クリストフ・ブルームハルト、バルト、ティリッヒ、ジョン・ペイリー、クルマン、オットー。さらに、石牟礼道子、武田清子、大江健三郎、俳人・花田春兆、など、人名索引や文献検索をつくるなら、いったいどのくらいの量に及ぶだろう。

「講解説教」ではあるが、説教テキストをただ説明することに著者の関心はない。どの説教も、聖書テキストから想像力を呼び覚まされるまま、時代の問題や説教者自身の体験に積極的に言及し、主イエス・キリストの今日的な意義を浮かび上がらせていく。そうして、説教者の対話の中に、読み手を引きずり

込んでいく。しかも、「いわゆる『教団紛争』の激しい時代で、わたしは嵐に悩む弟子たちの船に主イエスが乗り込んでくださるような思いで、幾篇かを書いた」という「あとがき」。厳しい状況の中、差し迫る思いをもって、み言葉に耳を傾けたのである。だから、読む者の心を打つ。

四〇年も前の説教であるのに、古びた感じはしない。信徒の方々には祈りの手引きとして、また、説教者の方々には第一級の説教黙想の文章として、読書を楽しむことができるはずである。

(ひらの・かつき) 日本基督教団代田教会牧師
(四六判・二五八頁・定価二二〇〇円〔税込〕・教文館)

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.
大幅リニューアル!
よりコンパクトに、より実用的に!
2月15日発売予定!

Christian Year Book 2013
キリスト教年鑑 2013

PCで情報閲覧
+ラベル印刷機能
CD付き
CDの使用は
Windows/Macに対応

キリスト教年鑑編集委員会◎編
一九四八年の創刊以来通巻五六巻の継続性と新しい時代に対応した編集に努めます。最新のデータブックとして、あるいは歴史的な資料として幅広く活用できます。二〇一三年版よりP.C.上で情報を閲覧できラベル印刷もできる役に立つ便利な機能を搭載したCDを付録します。また、二〇一三年四月には会員制「キリスト教年鑑」のサイトを公開予定です。乞うご期待!

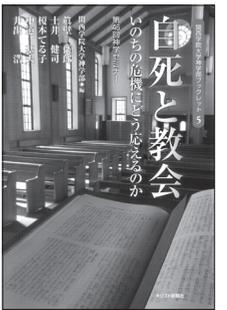
キリスト教年鑑
2013
地図から簡単に、
瞬時に教会を探し出せます!

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (価格に税込)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

■B5判・CD付き・8・40頁・126000円

一人ひとりの分だけの苦悩がある
 関西学院大学神学部編
 眞壁伍郎、土井健司、榎本てる子、中道基夫、井出浩著

関西学院大学神学部ブックレット5
自死と教会
 いのちの危機にどう応えるのか 第46回神学セミナー



福山清蔵

私が一八歳の年の七月に二〇歳の姉が大量の睡眠薬を服薬して自殺してしまいました。その日からずっと四七年が経ちます。長い間、私の心はあてもなくさまよいつづけていたのですが、一〇年ほど前のある日『自殺って言えなかった』（サンマーク出版、二〇〇五年）という本に巡り合いました。それから私の心は自殺とその遺族の問題に立ち向かうことになりました。そうしたらその次の年にはわが国で自殺対策基本法が成立しています。私が五〇歳になる時でした。

二〇一二年、大学院ゼミで「自殺と福祉」というテーマを掲げました。五人の院生たちと自殺にかかわる事柄について歴史的・宗教的・心理学的意味について確認しながら講義を進めてきました。その講義の中で大学のチャプレンに話を聞く機会が得られ、チャプレンは講話の中でカリタスジャパンから出版されている『自死の現実を見つめて』を紹介されました。カトリックの立場から自殺に対して否定してきたことに反省をしながら、自殺の問題にきちんと目を向けている姿を確認することができました。チャプレンは葬儀で用いられる式文についても教

会史を踏まえつつ詳しく触れて話されました。

本書『自死と教会』の中で、中道氏が丁寧にこの葬儀の問題に触れています。本書全体を通じて自殺を教会の側から、神学の立場から見ることによって改めて自殺者や自死遺族が置かれてきた歴史を見ることが出来ます。今日でも自死遺族は喪失の悲しみの上に、罪を負うものという意識から解放されることがないままに生きてきたのです。今、教会が本格的にこの国の自殺に向き合うことによって人々の癒しの泉となることが求められています。自殺者の置かれた立場はアウグスティヌスが自殺を罪とした時代から時間が相当経っているにもかかわらず、未だに自殺者とその遺族たちは教会の権威の前では隠れるようにしか生きたりしないという仕打ちの前で身を引き裂かれるような感覚で悲しむ人々が大勢いたことを覚えてほしいのです。

眞壁氏が本書で「主がおいでになるとすれば、死を考えている人のところに、親しい人を失っている人のそばにきつとられる」（二二頁）と述べているように、神と教会の業はまこと

にそのように力や慰めを与えてくれるところにこそある、という信仰が求められているのです。私たちがこの自死という現実に向き合うことを通して、喪失の悲しみを抱えている人、自ら死を見つめている人に向き合うことがなければ、自殺者や自死遺族たちには真の慰めが永遠に得られないでしょう。

日本で手に入る他の自殺関連の書物と比較して、本書はキリスト教に立脚しているのみならず、本書の構成は精神科医からの提言あり、ワークシヨップあり、礼拝ありと重層的な視点から取り上げられ、論じられており柔軟で得がたい試みと言えます。壮大なオラトリオに立ち会っている印象さえあります。

一方、教会や神学が自死に対してどのような実践的視点を持つことかできるのかという点については課題が残りました。自死は教会の中で意味づけられ、論じられるだけのものではなく、現実には何とかわさるべきものなのです。教会の働きとして今後どのように取り組んでいけばよいかという点では、自死遺族ケ

アとしての牧会の在り方、信徒の抱えた魂の苦痛への配慮、聖職者養成における自死への視座の共有など、いくつかの課題が想定されます。南紀白浜で自死志願者への具体的な支援に取り組んでいる教会の働きが人々に勇気を与えているだけでなく人々の教会への希望となつていっています。

我が国では年間三万人の自殺者と言われて久しいのですが、三万という数ではなく一人ひとりの分だけの苦悩の人生があり、その背後に今なお見捨てられている遺族がいるということに心を止めてこの社会の苦難に向き合いたいと願っています。

（ふくやま・せいぞう＝立教大学コミュニティ福祉学部教授）
 （A5判・一五〇頁・定価一五七五円・キリスト新聞社）

キリスト新聞社の本
 Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

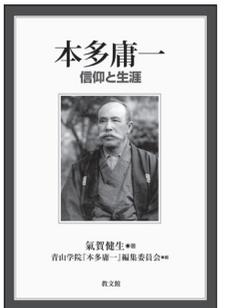
関西学院大学神学部ブックレット5
自死と教会
 いのちの危機にどう応えるのか
 シリーズ 第46回 神学セミナー
 眞壁伍郎、土井健司、榎本てる子、中道基夫、井出浩著
 好評発売中
 自死の問題にどう向き合い、現代の教会がどのようにして応えていけるのかを考察。二〇一二年一月に行われた関西学院大学神学部神学セミナーの講演と礼拝を収録。
 A5判 150頁 1,975円

キリスト教カウンセリング講座ブックレット12
ミドルエイジの問題
 いのちの危機を克服し、カウンセラーとして援助するために
 ミドルエイジの問題
 石井千賀子、加藤麻由美著
 好評発売中
 ミドルエイジ（中年期）に起こりやすい問題を取り上げ、その克服と援助の仕方について、家族療法の視点からシニエグラムとケーススタディーを元に解説。
 A5判 168頁 1,975円

キリスト新聞社
 351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
 和光フアザ2階
 TEL. 048-424-2067 (価格に税込)
 E-Mail. support@kirishin.com
 URL. http://www.kirishin.com

評伝と第一次史料から多角的に描く
 氣賀健生著
 青山学院「本多庸一」編集委員会編

本多庸一
 信仰と生涯



棚村重行

本書は、旧日本メソジスト教会の監督・牧師で青山学院の第二代院長でもあった「本多庸一（よういつ）」召天百周年記念の事業の一環として、編集委員会が約一年余りにおよび作業の結果、二〇一二年十一月に刊行を見た著作である（「あとがき」）。これにより、名誉教授氣賀健生氏の旧著『本多庸一』の待望の改訂版が再びリリースされただけではない。パロック古楽器演奏に喩えれば、同学院の宗教部長嶋田順好氏が編集上のコンサート・マスター役をつとめ、他の教授陣、資料センターのスタッフ等学院内外関係者の献身的な競演もあいまって、「本多庸一——信仰と生涯」という主題の骨太で豊饒な響きのチェロ協奏曲演奏を聴くような楽しみが味わえるようになった。より具体的に言えば、先ずは、若い世代の読者を考慮し、楽譜に当たる氣賀氏の旧版伝記を句読点の付加や現代仮名遣いの導入をして極力読みやすいように編集されている（「第一部」）。次に、本多自身の説教、講演、論文のみならず、同時代人の本多評、本多の筆になる書の図版集といった第一級の一次史料が厳選され、収録されている（「第二部」）。これにより読者は本

多の生涯や時代について伝記や最後の「年譜」を頼りに歴史の文脈（コンテクスト）を学び、ドラマチックに本多や同時代人の「肉声」（テキスト）に聴くことができるようになった。だが最も重要なことは、いわば作曲家兼チェロ奏者、氣賀氏自身の手になる改訂版は、氏の特技である三つの奏法により表現された本多に関する秀逸な歴史的評伝だということである。第一に、氣賀氏は「歴史は足で書く」（斎藤孝氏）という諺が示す第一次史料の収集に執念を懸けた真正正銘のプロの歴史家である。氏のこの執念は、改訂版の叙述と詳細な裏付けの注からも見て取れる。第二に、「史料をして語らしめる」氣賀氏の叙述の巧みさが随所に存在する。例えば明治四十年晩夏に彼の愛児鐘七が病没したさい、本多はこう日記に記した、「療治は後れたり。されど彼（鐘七）は主の懐に生長すべし。天父と同じ経験を嘗むるは光榮なり（以下略）」（二二〇頁）。読む者に、試練に耐える父・信仰者本多の姿をリリックなまでに彷彿とさせてやまぬ。第三に最も重要な内容構成であるが、氣賀氏の分析は論理的で、とくにテーゼの提示法は対称を描くがごとく明

晰である。「本多庸一は明治人であった。かれの発想も行動もすべてこの明治期という時代の条件を離れては理解することができない」から始まる（はじめに）。次いで本多の津軽藩上級武士としての生い立ち、横浜時代と入信過程、弘前での伝道、教育、政治の三足のわらじを履く活躍、転機を経て青山学院長時代と不敬事件への対応、福音同盟会会長と訓令十二号問題、日清・日露戦争への態度、メソジスト三派合同と初代メソジスト監督としての活躍、そして終焉に至る生涯を描く。その上で、本多の「一生を捧げつくした課題は『キリスト教の日本的展開』に他ならなかった。……そのもろもろの功罪は、本多没後百年の今日、現代の諸条件のもとで、改めて評価されなければならぬ」と結ぶ（二六七―八頁）。以上の氏の三奏法がまろやかなブレンドをなし、読む者に「本多庸一——信仰と生涯」という主題に対する巨匠的なパロック・チェロ協奏曲演奏を聴くような醍醐味とスケールを味わわせてくれる。

無議論完璧な演奏はないように、この勝れた著作にも微細な不滴がないわけではない。第一に、本多の功罪についてももう少し個人的な氣賀氏自身の評価を伺いたかったが、公的な学院出版物の性格もあり、やむを得なかったのである。第二に本多庸一研究の参考文献一覧表がなく、これがあれば一層若い世代の研究者に役立つであろう。第三に、今後は日本教会史や日本史の文脈における本多のみならず、英米教会史、神学思想史との関係史の観点から本多の行動や思想も解明される必要がある。だが本著作はこうした展開を可能にする日本側の堅固な研究土台を据えた点で、永続的な価値をもつ作品であることは疑いない。学院内外の識者に広く読まれることを期待したい。

（たなむら・しげゆき＝東京神学大学教授）
 （A5判・四一八頁・定価二九四〇円〔税込〕・教文館）

2013年大河ドラマ
 『八重の桜』主人公の生涯

新島八重ものがたり
 山下智子

激動の時代を毅然と生きぬいた
 新島八重。新島襄の妻として、
 またキリスト者として生きた彼
 女の生涯と信仰を、史的裏付け
 を得ながら明らかにする。

四六判・144頁・1575円

母への思いが溢れる1冊
 母を語る エッセイ集

日野原重明／小塩 節 他

16名が「母への思い」を綴るエッセイ集。常に祈る母など、様々な「母」が描かれる。母を通して働く神の恵みを伝える。

四六判・242頁・2100円

日本キリスト教団出版局
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
 E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp〔価格税込〕
 http://www.bp.uccj.or.jp

御言葉によって改革される礼拝

H・O・オールド著
金田幸男、小峯明訳

改革派教会の礼拝 その歴史と実践



関川泰寛

本書の原題は、『礼拝——聖書によって改革される』です。確かに、叙述全体はカルヴァンに代表される改革派教会の神学と実践に焦点が当たるように構成されていますが、聖書、古代、中世、宗教改革、近現代の時代ごとに、礼拝に関わる諸課題が丁寧に論じられています。諸課題とは、洗礼、主の日、賛美の務め、御言葉の務め、祈りの務め、主の晩餐、日々の祈り、施し、伝統と実践です。これらが各章ごとに取り上げられ、歴史に沿って、神学と実践がどのように展開されてきたかを、読者はわかりやすく学ぶことができます。

本書が、牧師や神学生はもちろん、教会の読書会などでも広く用いられることを期待します。なぜなら、本書は、礼拝の本質とは何か、わたしたちの教会の礼拝のルーツがどこにあるのか、さらに今日どのように礼拝改革を進めることができるかを考える手がかりを適確に与えてくれるからです。改革派教会の伝統に生きる教会だけでなく、日本のキリスト教会全体に広くお勧めしたい書物です。

さて、著者のオールドは、アメリカ合衆国長老教会（PCU

SA）に属する、指導的な礼拝学者であり、これまで多くの著作を公にしてきました。わたしの手元にも、彼の数冊の著作があります。その中に『改革派教会の礼拝の教父の源泉』（一九七〇年、未翻訳）があります。この書物は、主の祈りや説教、聖餐、日々の祈りなどの諸課題を各章ごとに取り上げながら、宗教改革者たちの神学の背後にある古代教父の伝統の源泉を明らかにしている学術書です。オールドが、宗教改革者の礼拝の神学と古代教父の神学の密接なつながりに、若いころより関心を抱き研究を重ねてきたことがわかります。伝統との対話という著者の関心は、本書にも見られ、宗教改革者たちの神学の背後にある古代教父の伝統との連続性が随所で指摘されて、宗教改革の神学と実践が、中世の伝統の刷新にとどまらず、古代教会の伝統という源泉の継承でもあったことを読者は認識することができます。このあたりの著者の問題意識は、本書の最終章「伝統と実践」によく表れています。

そこで最終章を真剣に読む者は、自身が属する教会の礼拝についての分析や反省、礼拝の改革の可能性など、多くの問題を

突きつけられるでしょう。著者は一四項目を掲げて、現代の教会が、教会の伝統から何を受容し、改革へと生かしようかという提言を具体的に示しています。礼拝改革にあたって、復古主義でも伝統捨象でもなく、聖書という規範に従って、伝統に向き合いながら、伝統を維持する価値を十分認識しつつ、礼拝の改革と刷新がわたしたちの課題であることを伝えていきます。

オールドによれば、伝統は、わたしたちの根源にあるものと接触を可能にしてくれます。当然そこで守るべきものが明らかになります。さらに伝統は永続的価値という素材を持っている。古代教父や宗教改革者たち、つまり信仰の先達たちは、何度も霊的な遺産を産みだし、わたしたちの教会が継承すべき永続的な価値を明らかにしてきました。わたしたちが古典を評価するのではなく、古典がわたしたちを評価するのと同じように、礼拝の神学の伝統にもまた同じことが言えるとオールドは指摘します。

本書は、伝統が聖書の権威を主張する限り、伝統を保持し継承するという立場を一貫して守っています。そして伝統の根源に存在する契約の思想や頌栄性、聖霊論の重要性など、教理的な示唆を与える指摘とともに、洗礼と教理教育（カテキズム）の結び付きの重要性、さらに詩編の祈りを回復する試みなど実践的な提言もなされています。わたしたちが、教会の礼拝の神学と実践の根底に流れるものを知れば、むしろ伝統を生かすために、どのような礼拝刷新が必要かという神学的課題も与えられるはず。ぜひ一読を勧めたい書物です。

（せきかわ・やすひろ＝東京神学大学教授、日本基督教団十貴坂教会教師）
（A5判・三三四頁・定価三〇四五円〔税込〕・教文館）



新刊



宗教学論叢17

夢と幻視の宗教史 【上巻】

河東 仁 編

●A5判上製 本体5,000円＋税

高井啓介 夢の語りとはことばの遊戯—ヘブライ語聖書の「夢」解釈の技法／吉田京子 12イマーム・シーア派の夢議論／鈴木桂子 夢の拒絶と夢への憧れ—ヒルテガルト・フォン・ビンゲンの幻視／高橋原ユング心理学的観点からの夢の解釈／大澤千恵子 児童文学と夢—子どもの夢によって開かれる“生きたファンタジー”／他10篇を収録。

ISBN978-4-86376-027-1

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

ヨハネの実像に迫る今日的な試み
吉田 新著

バプテスマのヨハネ
聖書の研究シリーズ66



川島貞雄

イエスを理解するうえでバプテスマのヨハネの存在は欠かせないが、筆者の知るかぎり、日本語ではこれまでヨハネをテーマとする包括的な研究書は書かれていない。このたび吉田新氏の『バプテスマのヨハネ』が教文館の「聖書の研究シリーズ」に加えられた。大変喜ばしいことである。著者はハイデルベルク大学で神学博士の学位を取得、現在、同大学の東アジア研究センター・日本学研究所客員研究員。新進気鋭の研究者である。

本書は第一章「バプテスマのヨハネとは誰か」、第二章「ヨハネの教え」、第三章「バプテスマとは何か」、第四章「福音書のなかのヨハネ」、第五章「バプテスマのヨハネとイエス」、補論「ヨハネとイエスの時間感覚」から構成されている。著者は先ずヨハネの運動の歴史的背景として前二世紀のシリア王安ティオコス四世とヘレニズムのユダヤ人による暴力的なヘレニズム化の試みに対する「敬虔な者たち」(ハシディーム)の抵抗と殉教、その中で高まる黙示文学の終末期待から、後のローマ帝国の圧政の下で生じた帝国とその傀儡であるユダヤ人政権に対する反乱にいたる時代を概観し、その流れのなかで民族

的・宗教的アイデンティティ喪失への危機感から律法尊重主義、清浄観念が強化され、ヨハネ登場の素地が用意されたことを指摘する。ヨハネはローマに対する暴力的抵抗の道をとらず、「そのような危機的状況は神の裁きが下される予兆だと受け取り、人々の内面の備えを勧告した」(二三頁)。ヨハネが祭司の出であった蓋然性は高いが(二三頁)、彼の言動は預言者的である(四七頁)。だが終末的審判者としての「人の子」や歴史の「内」ではなく「外」にある終末の期待などにおいて、ヨハネは黙示思想の影響を受けている(六〇―六四頁)。

こうして著者は、エッセネ派・クムラン宗団の沐浴やユダヤ教の改宗沐浴との比較によって、迫り来る終末の裁きに備えて罪の赦しを得させる悔い改めの一回的なバプテスマを受けることを、閉鎖的な共同体においてではなく、全ユダヤ人に向かって要求するヨハネの洗礼の特色を明らかにする(一一七頁以下)。その洗礼の神殿批判的性格が繰り返し強調される。神殿で祭司が執り行う祭儀をとおして与えられる罪の赦しを、ヨハネはヨルダン川における悔い改めの洗礼によって与えた。彼の

バプテスマを受けに来た者たちのなかにはクムラン宗団からも神殿祭儀からも排除された「罪人」と呼ばれていた人々も含まれていた。イエスの神殿批判は「ヨハネから学んだと考えられる」(八頁)。

しかしイエスは、村々を巡回し、ヨルダン川のヨハネのもとに行けない「罪人」とも積極的にかわるることによって「罪人」を生み出す構造自体への根源的批判を行った点で、ヨハネを超えている(二三―三三八頁)。さらにヨハネとイエスとの最大かつ決定的な相違点として後者における「祝祭空間」としての「神の支配の圧倒的な現臨感」が強調される。それは恵みの言説と共にイエスの運動を規定する(一七八頁)。著者はイエスのこの時間感覚を木村敏の「イントラ・フェストウム」(祝祭の只中)から説明することをも試みている(一九三頁以下)。筆者は本書から多くのことを学ぶことができた。だが神の終末的支配、律法、バプテスマという重要な事柄に関してイエス

とヨハネとの対立的相違がきわめて大きいことは、「イエスの活動はヨハネの投獄、殺害を機に始められた」(八頁)というよりも、むしろイエスがすでにそれ以前にヨハネから批判的に離れて独自に活動していたことを示唆しないだろうか。また、ヨハネの洗礼を受けることが「悔い改めにふさわしい実を結ぶことに他ならない」(一八五頁)のだろうか。意見が分かれるところである。

いずれにせよ本書は、歴大な使用文献と専門的な注からも分かるように、最近までの研究史を踏まえて諸説と批判的に向き合いつつ論を進めているが、平明な叙述と多くの図表や写真、各章の最後に付された「まとめ」によって一般読者にも理解しやすいものとなっている。今日ヨハネの実像を探求しようとする者には実に有益な書物である。

(かわしま・さだお)日本基督教団隠退教師
(B6判・二三八頁・定価二九四〇円(税込)・教文館)

新教出版社

聖書歴史地図

新教タイムズ プリチャード編 日本語版監修 荒井章三 / 山内一郎 他

B4判・272頁
定価27524円

壮大で立体的なカラー地図と図版600点に詳細な聖書時代史を配し、聖書学・考古学・オリエンタル学・言語学の総力を結集した画期的成果。学校、教会に必携。

カラー版 聖書大事典

ワイゴーター編 日本語版監修 荒井章三 / 山内一郎

菊倍判・1100頁
定価41796円

4千以上の聖書用語を71名の専門家が的確に解説。総カラー頁。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL: 03-3260-6148
Email: eigyo@shinkyo-pb.com

■新教出版社

最新期キリスト教の思想の軌跡

青野太潮著

イエスの言行とその生涯は原始教会によってどのように解釈され、展開されていったのか。パウロの思想はどうか。新約思想の軌跡・その発展の線を描くという観点から書かれた論考を中心に、七〇年代から今日までの二九本の論文・エッセイを収録した、青野新約学の集大成。

四六判・800頁・予価6720円

バルト・セレクション5 教会と国家II

カール・バルト著／天野有編訳

「福音と律法」「義認と法」「フロマートカ教授宛書簡」「今日の出来事」におけるキリスト教会の約束と責任」等、反ナチ教会闘争時代の重要論考一〇編を収録。教会が教会として闘うとはどういうことか。その聖書の・神学的根拠を徹底的に考え抜く。

文庫判・744頁・予価19000円

■日本キリスト教団出版局

旧約聖書と説教

越川弘英、平野克己、大島力、並木浩一著

二〇一一年日本旧約学会シンポジウム「旧約書と説教」での四講演、旧約を説教に用いることを、礼拝学、説教学、旧約聖書学の最先端で活躍する四人の著者が語る。説教実例二編も収録。

A5判・128頁・1260円

10代と歩む 洗礼・堅信への道

《志願者用ワークシートCD-ROM付》

朴 憲郁、平野克己監修

大澤秀夫、笈伸子、田中かおる、古谷正仁著

10代の志願者が、楽しく学べるように工夫された洗礼・堅信プログラム。カテキスト（指導者）のためのわかりやすい教理の説明、洗礼・堅信の意義、志願者のケア等も掲載。

B5判・144頁・21000円

INFORMATION

近刊情報

■教文館

新カトリック教会小史

N・タナー著／野谷啓二訳
初代教会から現代までの膨大な歴史を、コンパクトにまとめた最新のカトリック通史。神学や公会議、民衆の信仰生活など概説的な機能もあり、平易な表現でキリスト教初心者にも読みやすい。

A5判・320頁・3360円

無教会としての教会

——内村鑑三における「個人・信仰共同体・社会」

岩野祐介著

無教会の創始者であり、不敬事件や非戦論を説いた内村のキリスト教思想の内幕を、彼の聖書解釈テキストを通して明らかにする画期的・包括的な研究。

A5判・336頁・4725円

■キリスト新聞社

キリスト教年鑑2013年版

キリスト教年鑑編集委員会編

カトリックからプロテスタントまで、キリスト教界のあらゆる情報を網羅！2013年版よりPC上で情報を閲覧でき、ラベル印刷もできる便利な機能を搭載したCDを付録。

B5判(CD付き)・八六〇頁・定価12600円

DVD付き 日本の説教者

I 平野克己、関谷直人編著

収録説教者①加藤常昭、深田未来生、②榊原康夫、雨宮慧、③辻哲子、加藤博道

B5判ケース(DVD3枚セット)・付録冊子・予価4725円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zenbook/	zeninikan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-136 敷島センター17F	022-223-2736	共用		fcqwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	平新町短縮22 千葉クリスタルセンター	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://www/seikokai-pub.jp/	seik-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.jcom.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisukyoustoten@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.ne.jp	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00680-8-47
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@mbox.kyoto-inet.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakacs	ochbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9933			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shrit.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	901-2134	浦添市港川12-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283
エマオ・BOOKセンター	904-0004	沖縄市中央3-14-2	098-929-3776	共用	http://www.okinawacbs.com/	emaocbs@yahoo.co.jp	

福音と世界

2013年3月号

特集 交流する東アジアのキリスト教

交流する東アジア……………李省展
 韓国キリスト教史とアジア的観……………徐正敏
 「琉球Ⅱ沖繩」とキリスト教……………一色哲
 中国キリスト教史研究から見る……………渡辺祐子
 各論考に対するコメント……………原誠

【連載】

語り継ぐ3・1・1……………齋藤篤
 市民K、教会を出る……………金鎮虎

A5判・80頁・本体571円・〒68円
 年間予約購読料〒共8,016円（消費税込）

キリスト教と社会の危機

ウォルター・ラウシエンブッシュ著
 ポール・ラウシエンブッシュ編
 山下慶親訳



20世紀初頭、内面的信仰に安住
 していた世界の教会を震撼させ
 た問題提起の書。経済格差が広
 がる中、再読されるべき古典。
 ◎四六判・540頁・定価6405円

編集室から

二〇一三年一月一四日、大阪のYWCA山西福祉会館におい
 て、「キリスト教書等に関する懇談会」が開催された。パネリ
 ストは関西地区の牧師やキリスト教主義学校の宗教主事の先生
 五名。出席者は関西・中国・四国・九州・沖繩地区のキリスト
 教書店の店長や、キリスト教出版社（団体）の編集者・販売担
 当者等二十六名であった。

この懇談会の目的は、キリスト教書の購読者から、書店・出
 版社に対する忌憚ないご意見を伺うことにある。今年で四回目
 になるこの会でも、パネリストの先生方から厳しいご指摘をい
 たいただいた。

「書店の人が教会に来てくれる。でも荷物を置いて去っていく
 だけ」。「キリスト教本屋大賞の受賞作に納得できない。どうい
 う審査基準をしているのか」。「教会のヤングアダルト向けの本
 がない」。「もっと緩やかな枠組みのキリスト教入門書がないも

のか」。「キリスト教書店は、アマゾンに比べてスピード感がな
 いのは仕方がない。本の紹介等もっと別のサービスをすべき」等々。

その中でも特に印象に残った現実的なご発言を紹介したい。
 一つは、古典的名著といわれるようなキリスト教既刊本が売れ
 ない理由について、「牧師の二代目三代目だと、先代から譲ら
 れた本があるので十分間に合うんだよね」。二つ目は注解書に
 ついて。「欧米の注解書だと、原語で読めばインスピレーション
 が沸くものもあるが、翻訳では因かない。もっと日本の現実
 に即した注解書がないものか」。

キリスト教書店も出版社も厳しい状況に置かれている。しか
 し、ある書店はキリスト教月刊誌を毎月、高齢の信徒宅に届け
 ている。訪宅はもとよりコストに合わない。文書伝道のために
 やっている。その志し、心意気を本誌も共にしたい。

（寺田）

アウグステイヌス著作集

別巻I 書簡集(1)

アウグステイヌス 金子晴勇訳 ●5,460円



現存するアウグステイヌスの書簡252通から101通を選んで2冊に収録。第1冊目にはミラノの回心から西ゴート族によるローマ攻略までの時代の書簡を収録する。

好評発売中!

S・A・クーバー 上村直樹訳

『はじめてのアウグステイヌス』

H・チャドウィック 金子晴勇訳

『アウグステイヌス』

P・ブラウン 出村和彦訳

『アウグステイヌス伝』

●2,100円

●1,785円

●上II 3,150円

●下II 3,150円

キリストの肖像

信仰復興にかけた
画家たちの情熱と生涯



近藤存志

ラファエル前派と
19世紀イギリスの画家たち

天皇帝国家と女性

鄭玆汀

日本キリスト教史における木下尚江



社会運動家、ジャーナリスト、作家として活躍し、廃娼運動、禁酒運動、足尾銅山鉍毒問題などで論陣を張った木下尚江の思想的展開を、同時代の著名なキリスト者と比較しながら辿る意欲的な試み。

好評発売中!

責任編集 山極圭司・山田貞光・後神俊文・鈴木範久

清水靖久・岡野幸江

『木下尚江全集』 全20巻

四六判・各巻400〜600頁・上製箱入
全20冊揃い30,630円

ミレイ、ハント、バーン・ジョーンズをはじめ、英国ヴィクトリア朝中期に活躍した画家たちは、どのようにキリストを描き、信仰を絵に表現したのか。65点の美しい図版とともに味わう、キリスト教美術鑑賞の手引き。

●27,600円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL.03-3561-5549
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e shop 教文館

新教出版社

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198

ホームページ: <http://park11.wakwak.com/~shinkyō/>

生誕 100 年記念出版 大反響発売中

渡辺禎雄聖書版画集 くすしきみわざ

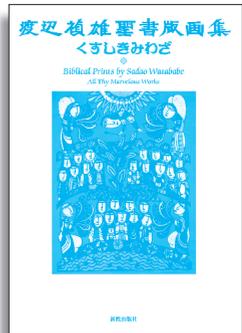


日本の伝統民芸である型染版画の素朴な美と、深く篤実なキリスト教信仰とが結びついて、独自の表現世界を築き上げた渡辺禎雄（1913～1996）。その評価は、国際的にますます高まりつつあります。

ここに生誕 100 年を記念し、代表作 73 点を収録した作品集を刊行します。神の「くすしきみわざ」を賛美

し続けたわが国キリスト教美術の一頂点が、広く鑑賞しやすい形となりました。贈り物にも最適です。

解説＝神田健次、アン・パイル ◆A4・182頁・定価 5250 円



本のひろば 第六六号 二〇一三年三月号

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇一三年三月一日発行（毎月一回一日発行）

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話 〇三三三六〇一六五二〇 振替 〇〇一七〇一五二一六六七九
発行人 本村利春 編集人 白田浩一 印刷所 (株)平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話 〇三三三六〇一五六七〇

ガラテヤ人、エフェソ人、 フィリピン、コロサイ人 への手紙 私訳と解説

宮平 望著 ◆464 頁・定価 2625 円

4 福音書、使徒言行録、ローマ書、コリント書に続く好評シリーズの第 8 作はガラテヤ人、エフェソ人、フィリピン、コロサイ人への手紙の注解を収録。 **2月14日**

■重版案内

カルヴァン『祈りについて』 ◆1890 円

森本あんり『アメリカ・キリスト教史』

◆1785 円

キリスト教と 社会の危機

教会を覚醒させた社会的福音

W・ラウシエンブツシユ著

山下慶親訳

◆定価 6415 円

3・11 後を生きる キリスト教

ブルトマン、マルクス、バツハから学んだこと

川端純四郎著

◆定価 1155 円

定価七五円（税抜七二円）（〒60 円）

一年分一三〇〇円（送料共）